

日総工産

清水 竜一氏

「HRテック」「製造自動化」立ち上げ 業界標準プラットフォームで「第2成長フェーズ」へ

7～9月期決算発表が出揃い、自動車など製造業ではコロナ禍で負ったダメージからの回復が確認されている。そこで注目したいのが日総工産（6569）だ。製造業向けに人材派遣と業務請負を手掛ける同社。先ごろ通期予想の上方修正を発表したものの、さらなる上積みは避けられない。清水竜一代表取締役会長兼社長に現状を聞く。



「まずは2Qの振り返りから。減収減益だが、光明も。2Q（4～9月）は売上高で前年同期比10%減、営業利益で35%減だった。在籍人数が前期末から

増加に転じてきていること、そして、2Q時点でも自動車を中心に稼働日数が増加したなどのポジティブ要素を確認している。1Q単体（4～6月）と比べて2Q単

2Q末までに2246人減少したことが大きい。ここ数年は増加傾向が続いたものの、コロナ禍で顧客企業の生産活動に大ブレーキがかかったことが要因。本人からの申し出がない限りは雇用を継続、休業手当を支給していたのだが、残念ながら再開まで待てないという方が多かった。

ただし足元では在籍人数が増加していること、そして、2Q時点でも自動車を中心に稼働日数が増加したなどのポジティブ要素を確認している。1Q単体（4～6月）と比べて2Q単

2Q末までに2246人減少したことが大きい。ここ数年は増加傾向が続いたものの、コロナ禍で顧客企業の生産活動に大ブレーキがかかったことが要因。本人からの申し出がない限りは雇用を継続、休業手当を支給していたのだが、残念ながら再開まで待てないという方が多かった。

体（6～9月）では1人当たりの稼働日数が月に1・1日程度、時間外労働が9・5時間ほど増加しており、結果、営業利益は1Q単体の2・04億円から2Q単体は5・55億円と大きく伸びた。

「今後について。先ごろ決算説明会では新規事業についても言及した。

「AIに長けたクロスコンパスと資本業務提携を締結、いくつかのチャレンジに着手している。ひとつは「新時代のプラットフォームづくり」。全自動化に対応した製造システムの導入から保守管理などの運用までを丸ごと請け負うべく、現在は顧客企業のニーズとクロスコンパスの技術とをクリップさせているところ。メーカー数社に対してプロトタイプの立ち上げを準備中だ。

「今後について。先ごろ決算説明会では新規事業についても言及した。

「清水会長に「見えている世界は？」

「不確実性が増大して先が見通しづらい状況下では、当社の活躍余地がますます拡大することは想像に難くない。めまぐるしく進化する製造業のプラットフォームを自社で抱えること自体が大きくなりつつであり、その時々最適な体制

「今後について。先ごろ決算説明会では新規事業についても言及した。

「清水会長に「見えている世界は？」

「不確実性が増大して先が見通しづらい状況下では、当社の活躍余地がますます拡大することは想像に難くない。めまぐるしく進化する製造業のプラットフォームを自社で抱えること自体が大きくなりつつであり、その時々最適な体制